

令和7年度 第3回 江西中学校運営協議会 会議録(要点記録)

- 1 開催日時 令和8年 2月6日(金) 15時00分から16時15分まで
- 2 開催場所 江西中学校 会議室
- 3 出席委員 大竹信二、稲垣佐登史、岡本弥佐、鈴木義明、田所誉伯、
小池麻理、石切山和美
- 4 欠席委員 なし
- 5 オブザーバー 加藤晴康(南部協働センター所長)
- 6 学校職員 田中健之(校長)、青島真紀(教頭)、内山陽介(教務主任)、
森田美和(CSディレクター)
- 7 傍聴者 なし
- 8 会議録作成者 CSディレクター 森田美和
- 9 前回会議録確認
- 10 議長の選出 輪番制で今回は石切山委員が議長を務めることを申し出て、全員異議なくこれを承認した。

11 協議事項

- (1) 学校関係者評価について
- (2) 次年度学校運営の基本方針について
- (3) 学校運営協議会の自己評価について
- (4) 夢育やらまいか事業(CS加算分)の報告

12 会議記録

司会の教頭から、委員総数全員の出席があり、会議が成立している旨の報告があった。
熟議に入る前に前回会議録の確認があった。

(1) 学校関係者評価について

議長の指示により、教務主任から別紙資料に基づき、学校の自己評価の結果とまとめの説明があった。

委員からは、以下の発言があった。

- ・ 生活アンケートで「失敗を恐れず挑戦しているか」の問いに数字が伸びていなかったが、気持ちが守りに入っているところがあると思う。失敗してもいい事例などを出しながら、挑戦することの素晴らしさを学んで欲しい。取り返しのつかない失敗はいけませんが、失敗して学ぶことが人生の中でたくさんある。また、「自分のことを好きであ

る」の問いも数字が低かったが、毎日 1 つずつ自分の良いところや頑張ったことをアピールする時間をつくってみたらどうだろうか。面接などで自己アピールする力が大切になる。大人になると社会の中で自分をアピールする場面や能力を必要とするものが多々あるので、自分を肯定できる力を身に付けてほしい。その他、家庭学習の時間の少なさの問題もあったが、塾に通っている生徒も多いと思うが、塾では勉強しているが、家ではやっていないと回答している生徒がいると思うので、質問の書き方を変えた方がいいのではないだろうか。(鈴木委員)

- ・ 家庭での学習が少ないことで、不安や遅れが心配だ。学校から出る宿題が少ないように思う。家庭でする学習の量を少し増やした方がいいのではないだろうか。(大竹委員)

⇒宿題を出さなくなった。宿題が多すぎて出来なかったり、出せなかったりした生徒が、学校に来られなくなるということが無いように、極力宿題を出さないようにしている。(内山教務)

- ・ 宿題をやる意義は、優秀でなくてもいいが、毎日決められたことをコンスタントにできるかということだ。あきらめないで、頑張り続け、努力する力を育ててほしい。(岡本委員)
- ・ この学校ではいじめは出てきていないとのことだが、浜松市内全体ではどのような状況なのだろうか。(稲垣委員)

⇒暴力的ないじめは比較的少ない。見えないところ、知らないところで行われるいじめが増えている。特に、SNS が普及してからネット上での悪口や誹謗中傷が増えている。SNS では一瞬で見知らぬ人と繋がってしまう。他の学校の生徒とのトラブルやいじめに発展してしまうケースもある。拡散されると内輪だけの問題ではなくなってしまう、大問題にまで発展してしまう。(田中校長)

- ・ みんなスマートフォンを持っている時代なので、使うのは当たり前になっている。(稲垣委員)

- ・ スマートフォンの使い方や規制などの話を生徒にしているのか。(大竹委員)

⇒講座はやっている。サポートセンターの方や警察に来ていただき、事例をまじえながら生徒に伝えている。(田中校長)

⇒弁護士の立場から SNS のトラブルに対して、問題や解決策などを生徒に話してもらっている。市内のいじめは SNS が中心だ。(青島教頭)

⇒来年度も生徒向けの講座を開く機会を設けるように依頼中だ。(内山教務)

- ・ 自治会で大人向けのスマートフォンの使い方講座があることを知った。地域での危機意識を感じる(大竹委員)

- ・ 大人向けの講座は、金銭的に騙されないようにするための注意喚起を目的としている。(稲垣委員)
- ・ スマートフォンの子供への指導だけでなく、保護者への指導はどうなっているのか。(鈴木委員)
⇒入学説明会の時にトラブルの事例を挙げて紹介している。対策や問題を解決する方法、使い方のルールなど話をしている。(青島教頭)
- ・ 親より子どもの方が知識があり、見たり触ったりすればすぐに使い方を理解する。親がどうしていいかわからないことがよくある。親同士でも情報共有できればいい。(稲垣委員)
- ・ 10代後半の子供の薬物と関わる事例で使われるのは SNS が多い。親は解することができない。この地域にも薬物に依存してしまう子供はいる。数年後にそのような人とかかわりを持たないようにするために、小中学生の時から SNS の使い方の教育をするべきだ。使い方だけでなく、深い闇に入らないように、教育することが大切。ネットワークがとても広く、一度そのネットワークに入ってしまうと、なかなか抜け出せないとても怖い世界だということを教育する必要がある。(鈴木委員)
- ・ 小、中学生でもスマートフォンをみんな持っているのか。(大竹委員)
- ・ 部活動の連絡もラインで行っている。持っている子は多いと思う。(岡本委員)
- ・ うちを持たせていない。連絡を取る時には、親が受けて、それを子供に伝えるようにしている。(石切山委員)
⇒現状江西中学校の3年生の8割は自分のスマートフォンを持っている。持っていない生徒も、電話機能だけある携帯をもっている。自分個人のものを持っていない生徒は1割弱だ。(内山教務)
- ・ 今 SNS で暴力事件などが流れてきているのは、生徒に影響力があり、本当によくないと思う。(岡本委員)

(2) 次年度学校運営の基本方針について

議長の指示により、校長から別紙資料に基づき、令和8年度の学校運営構想の説明があった。(別紙参照)

- ・ このグランドデザインや構想は生徒に説明するのか。(岡本委員)
⇒学習指導では学年の初めのオリエンテーションで学ぶ目的や意味など授業に対しての姿勢などを説明している。生活指導では、校則などの目的や必要性など伝えながら、集会などで話している。(田中校長)

- ・ グランドデザインはみんなが見れるように、貼り出されているのか(鈴木委員)
⇒職員室に貼ってある。また、生徒や保護者には配布物で共有している。学校の目標像がイメージで分かるようにしている。ウイークポイントは改善し、ストロングポイントはそのまま伸ばしていくように職員で共有していきたい。(田中校長)
- ・ 他の学校では学校目標で達成できた内容を年表のようにして貼り出している。1年間でいつ、どのような時に出来ましたとみんなが見えるように表現していた。(鈴木委員)
- ・ 運動会などの行事で、「和気・本気」を表現できたらいいと思う。(岡本委員)
- ・ 共生はとても大切なことだと思う。大人になっても共感し合える力は必要と感じる。(大竹委員)
- ・ 先生方の働き方改革は今すでにあるのではないか。(石切山委員)
⇒資料には今の時間設定を載せたが、現実にはオーバーしている。時間を減らすだけで働く意欲が低下してしまう。授業準備だけでなく行事や部活などで、生徒のために準備をする時間は、とても大切だ。質と時間の兼ね合いをうまくやっていくのが来年の課題だ。(田中校長)

司会から来年度の学校運営方針の基本方針について、拍手での承認を諮ったところ、全委員の拍手があり承認された。

(3) 学校運営協議会の自己評価について

議長の指示により、教頭から別紙資料に基づき説明があり、会長の大竹委員から今年度の評価についてのまとめがあった。

- ・ 小さい課題でも問題が大きくなってからでは遅いので、課題の抽出が大事。何を話し合っていくのかが大切だろう。また、職場体験や未来授業を通して、生徒がどう変わったのか、いろいろな成長を子供たちが感じてくれればいいと思う。協議会の情報発信は、今後の課題になっていこう。たくさんの方々に協力していただきたいので、いろいろな人に情報を共有してもらえるように、どのように発信していくか考えていきたい。地域代表との交流の場があれば、より広く活動ができるだろう。また、部活動の地域移行に関しては、競技によってばらつきがあってはいけない。子供たちのやりがいや機会を奪わないように継続してもらいたい。子供たちにとって何か目標になるものを作ってあげられたらいいと思う。(大竹委員)
- ・ 来年度の運営協議会の目標は、今年の目標に「地域と協働し、生徒の未来創造力を高める体験学習の支援基盤を強化する」を加え、更なる活動をしていく。(青島教頭)

(4) 夢育やらまいかCS加算分について

議長の指示により、教頭から夢育やらまいか事業CS加算分について、未来授業の講師への謝礼に使ったことの報告があった。

13 報告

学校支援コーディネーターから本年度の職場体験は委員の皆さんのお陰で多種多様の事業所で体験ができたことのお礼と、来年度の協力についての依頼があった。

14 その他連絡事項

・ 次回の開催日時について

教頭から、2 期目の承諾書の提出、次年度の学校運営協議会の年間計画の予定と、次年度第1回協議会を、令和8年6月 25 日(金)15時から会議室にて開催する旨の連絡があった。